

自分らしい夢の見つけ方と育て方

奨励	梅原 伸宏【うめはら・のびひろ】
奨励者紹介	BBAアカデミー代表・クラブ博士

こんにちは、梅原といいます。私は、奈良県で野球のクラブを作っています。いろいろなところで講演させていただいていますが、今日は皆さんに元気を届けたいな、と思って来ました。実は私もこの同志社大学出身で、この講義室（明徳館）で山本先生の法学を受講しました。

最初に少しだけ私の自己紹介をさせていただきます。私は大学卒業後、地元の銀行に就職しましたが、高校生の時に亡くなった父親が経営していたスポーツ店が倒産しそうになったので、急遽、家業を継ぎました。父の長年の夢だった、個人商店を株式会社にして自社ビルにする、そして夢の売上1億円を目標に、ただただ頑張りました。理由は、私が大学に4年間通う間、母が一人で営業していたので、配達できない、難しい修理はできないような小さなスポーツ店だったので、息子が帰ってきて社員をたくさん増やして大きく躍進したな、と言われたという望みをもったからです。売上1億円も突破し社員も入り2階建ての自社ビルにして、さあ、これから2億、3億いくぞと意気込んだときに、当時の小泉内閣の規制緩和政策が始まり、大店法の改正で大量量販店の規制がなくなりました。家電や洋服やホームセンターの量販店と同じように、毎週末に大きなスポーツチェーン店のカラーのチラシが配られ、在庫も多し駐車場も大きく価格も安くて、個人商店では、全く対抗ができず、まずは支店を閉鎖しました。夢をもっていた社員も去っていきました。

しかし、「捨てる神あれば拾う神あり」で、そんなときにインターネットの環境が一気に整い、誰もがネットで商品を購入する風潮が生まれました。国産の野球のクラブの生産の80%は奈良県です。どんな修理もできます。国産の技術があるからです。昔父親がしていたクラブの修理のことを思い出して、2代目のクラブ屋としてBBAというホームページを立ち上げ、毎日ブログを書きました。無料メール会員も、2002年当時普通では考えられない3000人以上になりました。すると、全国のクラブ愛好家の方から連絡がきて、年間3000個の高額クラブを2人で（私と家内で）販売するというありえないスポーツ店（クラブ専門店）になりました。普通のスポーツ店でクラブは年間100個ぐらい販売している時代です。そこで、オンリーワンのクラブ工房として店内を改装したら、全国から熱くコアなユーザーがその工房を見てクラブを買おうと、同額以上かかる電車賃をかけて来てくれました。クラブ購入者に書いていただく宿帳のようなクラブ・ノートには、沖縄・北海道・福井・東京・兵庫・高知・岡山という感じで、奈良の方がそのノートを見て「すげー」と驚かれたのを今でも覚えています。しかし、それも束の間、全国のスポーツ店が私の真似をしたうえに、また値引き合戦、いわゆるレッドオーシャン（競争の激しい既存市場）になりました。カタログに載っているナショナルブランドは結局、価格競争にさらされます。このとき私は、「これなら自動販売機と同じじゃないか、俺の存在って一体なんだろう」と、自分の個性・強みを考えました。これから将来、また何かを販売しても価格競争やサービス競争の繰り返しになる。オンリーワンになるにはどうしたらいいのか、どうしたらブランドができるのかを考えました。だって、エルメス、ルイ・ヴィトン、グッチはカバンを数十万円値引きなしで販売していますから。

本日伝えたい三つの事

私は今日母校で講演をさせていただくので、自分が20歳の学生の時に聞きたかった話をしようと思いました。伝えたいことは三つです。一つ目は、自分の強みを見つける、二つ目にそれを磨く、三つ目にそれを世の中で認めてもらう、この三つです。皆さんに自分独自のセルフブランドを作ってほしいのです。それが今ならできるのです。一つ目の、自分の強みを見つけることは実は簡単ではなく、一番厄介なこともかもしれません。でも大事なことは、いつも意識のどこかで「自分は自分の強みを探す。必ず見つけるんだ」と問いかけることです。それさえ自覚できたら必ず見つかります。見つければ時間の経過と運動してセルフブランドが構築されていきます。今後の皆さんの夢や目標も加速的に叶えやすくなると思います。そして、夢や目標が完成されていく過程で、さらにセルフブランドがグレードアップするでしょう。たとえば、皆さんはこの同志社大学に合格するという目標をもたれたから、この席にいるわけです。受験の時にいかにして合格するか、本気で考えましたよね。点数を英語で稼ぐか、社会で稼ぐか。社会なら日本史、世界史どちらで勝負するのか、と独自の戦略を立てたと思います。英語でも単語と長文と文法というふうに、まずは自分の強みを先に磨き、最後に苦手な部分をカバーしたと思います。私は来年50歳なので、20代・30代・40代のそれぞれの人生の悩みを知っているつもりです。皆さんにはお金と人生経験がないと思いますが、時間と若さがあります。これはお金や権力で絶対に入りません。最高の宝物だと思います。それを最大限に生かす時が今だと思います。

私は野球の講演でよく「なぜ甲子園に行くのか」という話をします。甲子園に行く確率は東大に現役合格するより狭き門です。浪人もできないし、毎年春夏合わせても1500人足らずの合格者、しかも試合に出られるのはその半分の750名、1勝できるのはその半分、そんな狭き門を目標にするなら、何かを代償にしないと無理でしょう。強豪校は基本的にスマホ禁止ですし、年に1・2日実家に帰れるかどうか、あとは寮で野球三昧。それでも甲子園の道は遠いし、出場できる保証はない。学業なら、東大を目指して頑張ってきたら他の国立や私学は合格できるでしょう。東大以外でも活躍している成功者はたくさんいますが、甲子園経験者かどうかはプロ野球選手になってもプロフィールに書かれるぐらいです。甲子園を目指す強豪校に入学するだけでも大変、ましてや60名や90名のライバルがいるなかでベンチ入りするの至難の業。過去によく、身長190cmで150kmの速球を投げられるわけでもなく、どんな球でもフェンス越えできる打撃センスをもっているわけでもない選手から「僕はこれからどうしたらいいですか」というような相談を受けましたが、私の答えはいつも同じ。「身長もパワーもないならスピードや瞬発力を活かそうよ。必ず君しかない武器があるはずだよ。それを見つけようよ」と。自分の個性を見つけ磨きましょう、とアドバイスしてきました。すると、その姿勢を指導者が認めてくれてチャンスを与えます。これは人生も同じです。その後の社会人になっても大きく活かされます。

新島襄先生から

個性学を学ぶ

個性という点において一番知ってほしいのはこの同志社大学の創立者・新島襄先生のことです。その人生が書かれた『新島襄の生涯』を読んでほしいと思います。彼は21歳の時に一人でアメリカに行っています。しかし、時代が違いますから民間人のパスポートなどももちろんありません。国が認めたわけではなく、脱国するのです。見つければ即牢獄、英語も話せない。そんな環境でも先生は、アメリカが日本に開国を求めて通商や契約を求めてきたときに、今のままで絶対に対等に交渉できないと思うのです。アメリカには国民投票で選ばれた大統領があり、自分たちの銀行や病院があり、自分たちの学校、教育がある。まさに民主主義の社会です。しかし、当時日本では幕府や藩がすべてを決めている。自分の未来も仕事も生まれた家で決まる。先生は「それではいけない、自分がやりたいことを自由に選べ努力できる社会を日本でも創造しないとイケない」という使命をもたれます。私も学生の時に一度は読んだのですが、50歳を前にこの講演を機に読み直して本を持つ手が震えました。新島襄先生の個性は、自分が正しいと思ったことは自分から実践する。FOR MEの夢でなくFOR US, FOR FUTUREの夢を本気で掴みにいく、これが先生の個性だと感じました。当時は、この素晴らしい本の行間など全く読めていなかった自分を痛感しました。だから今日、皆さんと共に学びたいのです、この同志社大学の校舎で。本日講演の2時間前にここに来て、一つ一つ新島襄先生の魂のこもった校舎を見て回りました。学生の時は当たり前だと思っていましたが今は奇跡なのだと分かります。

あなたの個性は

では、どうしたらあなたの個性を活かすことができるのでしょうか。まずは自分自身にもっともっと興味をもってほしい。自分という生き物に好奇心をもってほしいということです。現代はスマホや携帯、インターネット、スカイプ、ライン、ツイッターなど、多くの人とグローバルに繋がれます。しかし、あなたが見ているTV番組の主人公はあなたではない。インターネットに流れている最新のニュースもあなたの情報ではない。その間のあなたの人生の主人公はすべて、あなた以外の人です。もったいない、あなたの人生の主人公はあなたです。だから自分をもっと学んで、たまには自分合わせをしてほしい。これは方法論でなく意識の問題です。私はよくTVや新聞に出ますが、「梅原さんって何者」と言われます。「あなたは誰ですか」この答えは自分の名前、今の仕事、名刺の肩書などで済みますが、「あなたは何者ですか」と聞かれたら、どう答えますか。「自分は一体何者か、自分の人生の役目ってなんだ」と考えてみてください。

自分が何者か知る方法

自分が何者かを知るためにはどうしたらいいと思いますか。それはとにかく動くことです。私たち人間は人の間にいる動物です。動物は動く物と書きます。人と人の間を回遊するんです。あなたが会いたい人に会いに行く、憧れの人に会いに行く、話を聞きたい人に聞きに行く。なぜ会いたいのか、なぜその人の話を聞きたいのか。それを繰り返しているうちに、あなたの意識のレベルが上がっていき、あなたは自分に出会えるんです。

「ジョハリの窓」という言葉を聞いたことはありませんか。心理学ではとても有名な話です。1955年の夏にアメリカで開催された「グループ成長のためのラボラトリートレーニング」で、サンフランシスコ州立大学の心理学者ジョセフ・ルフト（Joseph Luft）とハリー・インガム（Harry Ingham）の二人が発表した研究内容を簡略化したものです。「対人関係における気づきのモデル」と言います。ジョハリという人物は存在しません。ジョセフとハリーの二人の名前を組み合わせたのでジョハリと言います。客観的に自分のことを知る、自分だけでは気づけなかった深い自己分析方法です。自分が知っている自分、他人が知っている自分を四つの窓（カテゴリ）に分類して理解することで、他人とのコミュニケーションを円滑にするモデル（方法）です。

- I 「開放の窓」 自分も他人も知っている自己
- II 「盲点の窓」 自分は気がついていないが、他人は知っている自己
- III 「秘密の窓」 自分は知っているが、他人は気がついていない自己
- IV 「未知の窓」 誰からもまだ知られていない自己ジョハリの窓

自分らしく生きている人や夢を叶えている人、いわゆる成功者と言われている人はこの「未知の窓」の中身を知っている人です。成功者とは、自分の思考や行動の価値を正しく判断できる人のことです。自分を知る人は富を生みます。Ⅱを調べましょう。Ⅱは友人や知人、家族に聞けばいいのです。「私の才能ってなんだと思う。私の個性の良さは何かな」。そしてⅣを知りたいなら冒険をすることです。

無地の紙を用意してください。そこに自分がしたいことを書いてください。なんでもいいから自由に。お金と時間の束縛が一切ないという条件で。たとえば、行きたい場所・観たい映画・一度も食べたことのないもの・次回行くこととお店の名前・次回買いたいもの・知りたい情報・会いたい人、など。そしてこれから公開内容、この用紙を必ず持ち歩くこと。ここでいう富とは財産やお金だけでなく、人脈・経験・出会い・学びなど、自分の未来に役立つ武器のことです。いずれにしても、自分の個性のもの強みが分かれば自分らしい夢が見つかります。個性を調べる最大の道具は「あなたの思考」です。あなたの思考が言葉を作りますが、その言語化される時間ってご存じですか。0・3秒です。人は0・3秒で思考を言葉に変換しています。先に何かがあって思考は作られ言葉になる。未知の窓を開くと、あなたのこの思考のもとが分かるのです。

思考の実験

ちょっと実験をしましょう。今から目をつぶってください。そして今自分が一番したいことを頭のなかで想像してみてください。恋人とドライブでもいい、次回のテストで満点をとるでもいい、将来社長になりたい、女子アナになりたい、など最高の夢を一つ想像してそのイメージをしてください。20秒だけでいいです。では、これから時間を計ります。「あなたの前に赤い野球帽をかぶった黒いサングラスをしたちよい悪の象が三輪車に乗ってあなたの方にやってきました。そしてサングラスをとってニヤツと笑みを作り『100円ちょうだい』と大きな手を差し出しました」。はい、いかがでしたか。20秒間自分の将来の夢だけをイメージできましたか。象をイメージして、自分の未来のイメージが飛んでしまった人は手を挙げてみてください。ほとんどの人が手を挙げましたね。言葉って強いでしょう。言葉はあなたのなかのイメージを変える、あなたの行動を変えるのです。だから、日ごろから他人の情報ばかりに意識がいくと、自分が何者か分からずに時間が経っていく。いつも自分が何者かという意識をもって会話・体験すると「あっ」と気がつくときがあります。

せっかく思考の話が出たので、思考つながりでもう少しお話しします。私たちは1日に約6万回思考します。少し寒いな、お腹すいた、あの車かっこいい、のどが渴いた、など。しかも困ったことに、1日6万回も思考するのに、95%が昨日と同じ思考パターンになっているのです。これは恒常性機能という働きです。生物のもつ重要な性質の一つで、生体の状態が一定に保たれるという性質です。要するに、生命体の一番の命題は命の保全、つまり、昨日安全だったからそのとおりにしたら今日も安全に生き残れる、と脳の下(原始脳)の方からの命令が出るのです。だから皆さん、新しいことをしたら大体三日坊主になりますよね。その秘密はここにあったのです。問題は、その80%以上がネガティブなことを思考するようになっている、ということです。その理由は諸説ありますが、一つは500万年前の進化のなかで、いつも獣の脅威や戦争があって平安な時代というのは少なかった。あなたが100万年前の原始人だとしましょう。背丈ほどある草むらでガサガサという音がしたら、あなたはポーズと立っていますか。反対方向に走るでしょう。日本史を見ても世界史を見ても、この2000年で戦争のない時代を探す方が大変でしょう。ある意味、貿易摩擦も領土問題も戦いです。受験戦争も会社の実績もストレスの対象です。だから何か出来事があると、まずはマイナスの方向に考えてしまいます。

さらに、私も偉そうなことは言えませんが親の教育もです。アメリカのシャド・ヘルムステッターという学者が提唱していますが、ほとんどの子どもは親からいつも叱られたり、怒られたり、マイナスイメージを植え付けられて育ちます。先進国の場合、生まれてから20歳になるまでに15万回近く否定的な叱られ方をしています。逆に、ほめられた経験はその10分の1もないと言われてます。「それをしたらダメでしょう」「ほらまた失敗した」「なぜそんな簡単なことができないの」。それに比べて、「あなたはすごいわ」「君は天才だ」「よくやった、君はヒーローだ」と言われた回数を少し思い出してみてください。10倍マイナスイメージを思い出言葉浴びてきた。さっきの象の実験でも証明されましたよね。だからまずはこの事実を知るることなんです。皆さんの脳の仕組みと、その長い進化の体験から生まれてきた思考のパターンを学びましょう。それだけでも大きな気づきになると思います。

もう一つの実験

では、自分の思考のパターンをマイナス傾向からプラス傾向にするにはどうしたらいいのでしょうか。舞台の上一人の学生さんに来てもらい、ある実験をします。イメージを変える言葉があるということを知る実験です。彼女に腕を平行に真横に上げていただき、手をグーにしてもらい。私は彼女の後ろに立ち右肩に左手を軽く乗せ、右手で彼女の右の手首を上から真下に押し下します。今は彼女は何もイメージしない状態です。いいですか、「せーの」と言って少しずつ力を入れます。男性と女性ですからある程度力を入ると彼女の腕は下に下がります。次に彼女に一つのイメージと動作を作ってもらいます。それは、首を横に振って少ずつむき加減で「だめだ、できない、私はできない」とゲームに負けたイメージをしてもらいながら何回も言ってもらいます。そして私が右手に少し力を入れると、簡単に腕が下がりました。次に一度仕切り直していただき、ジャンプしてください。今の悪い体験を打ち切るために。そして、今度は少し顎をあげて左手をガッツポーズにして首を縦にうなずくようにして「やったーやったー大丈夫。私はできる。なんでもできる」と大きな声をお腹から発してください。このとき、私が右手を上から押しても逆に跳ね返されて腕の先は肩より高くなり、男の私が後ろに飛ばされそうになる。会場からもどよめきがありましたね。一瞬で脳に電気が走るでしょう。これが脳の仕組みです。オリンピックの選手もよく使う筋反射テストと言います。種類はたくさんありますが、例外がない人間の仕組みです。これが皆さんの思考のパターンなんです。私たちの脳は影響されやすい。何もないと案な方、安全な方に意識がいくようになってます。だからまずはこの事実を知る、学ぶのです。

今の実験で自分の名前を言わずに「私はマリリン・モンローです」と言うと、脳は混乱を起こし、腕は下がります。私は○○○○ですと本名を言うだけで強くなる。それは事実だからです。だから「私は自分が何者かを知る。自分の個性を学んで世の中で役立てる」と胸を張って言い切ることです。姿勢も動作も大切です。姿勢とは姿に勢いがあると書きます。姿勢が悪いと空気の入りも悪い、脳は酸素がないと動きません。姿勢がいいと肺にたくさんの酸素が入ってきます。いつでも姿勢を意識してください。スポーツ選手も成功している方も、姿勢がいいはず。しかし、人間は環境のなかにいる社会動物です。だから「私は学生だからどうせ無理だ」という思考も出るでしょう。それを固定観念と言います。次にそれを払拭する実験をしましょう。

固定観念を取り除く実験

正面のパネルを見てください。ここに9つのポイントがあります。

これを一筆がきで書いてください。ただし条件があります。直線4本ですべての点を通過してください。できましたか。

皆さんは知らない間に枠を作る思考パターンになっています。その枠とは実は簡単に外れますよ。なぜなら、これを3本でできるという数学の学者が現れました。次に2本でできるという書道の先生が現れました。どちらもできました。そして1本でできるという人も出てきました。「直線じゃなければ僕できるよ」という小学生も現れました。ちなみに私は1本でできる方法を編み出しました。常識は過去の産物です。基本はなんでもできる、という立場から考える。これが固定観念を壊す方法です。学生だからできることもあるでしょう。自分の可能性の枠を壊してください。

地球の裏側で学んだこと

私がドミニカ共和国に行ったときのことで。完全に私の枠がぶち壊されました。グラウンドで野球をしている子どもたちは全員、裸足かサンダル、バットは持ってないので落ちている木の棒。そしてグラブはなく、ボールは石でした。彼らに将来の夢は、と質問をしました。彼らは胸を張って言います。「もちろんメジャーさ」。なぜ野球選手になりたいの。「それはね、お父さんとお母さんに家をプレゼントするんだよ。そしてアメリカで活躍してお金をいっぱい稼いで、この村の子にグラブとバットをプレゼントするんだよ」。まだ小学生の子どもにも私は枠を壊されました。コーチもいない、グラウンドと言ってもゴミだらけの空き地。学校に行けない、1日1食か2食しか食べていないドミニカの子どもたち。今、アメリカの大リーグには、メジャーに100人・マイナーに300人と、アメリカ人の次に多い400人のドミニカ共和国の選手たちがいます。その選手の95%以上はこのような貧しい村の出身で、自分の道具を持っていない子どもたちです。私たちは、ついついできない理由を探しますね。なんでもできる環境にいるのに。でも、彼らは環境も待遇も度外視です。必ずできると信じています。しかも、その夢のアフターゴールは、自分の家族のため、村のため、国のために。ドミニカ共和国の選手が日本に来たので投手用のグラブを作りましたが、そのグラブの親指にドミニカの国旗を刺繍しました。彼は「これを宝物にして大切に使うよ。絶対に活躍するから」と約束してくれました。私のこの活動は、ドミニカ共和国の新聞にも載りました。神様に感謝です。なぜなら、これで彼らに中古グラブを届ける術(すべ)ができたからです。

社会的成功とは何か

2011年2月発表、高校生の意識調査です。

(財)日本青少年研究所の調査のアンケート

質問「私は価値のある人間だと思う」(数字はいちと答えた人)

アメリカ 57・2% 中国 42・2% 韓国 20・2% 日本 7・5%

「私は肯定的に自分を評価するほう」

アメリカ 41・2% 中国 38% 韓国 18・9% 日本 6・2%

「私は自分に満足している」

アメリカ 41・6% 中国 21・9% 韓国 14・9% 日本 3・9%

「私は自分を優秀だと思う」

アメリカ 58・3% 中国 25・7% 韓国 10・3% 日本 4・3%

なぜこれだけ日本は数字が低いのでしょうか。何か淋しいですよね。この調査から分かることは、アメリカ人で自分に自信がある人は50%近くいますが、日本人で自分に自信がある人は5%前後です。100人いてたった5人程度、この状態でよいのでしょうか。彼らがこれから成長して日本の社会を担っていくわけですから、教育や宗教などの問題もありますが、親に自信がないとその家庭で育つ子どもも自信がなくなるのです。だから私は親子で大きなことをしようとしてトライします。田舎の小さな会社の社長でも、世界を相手にこれだけのことができるんだ、と。

記録は破られるためにある。自信は自分を信じると書きます。自分のことをよく知っているから信じられる。では、自分らしい夢を見つけるにはどうしたらよいのでしょうか。人がもつ未来に対する感情は二つです。期待か不安か、希望か失望か。何も考えず、何も感じないという思考もある意味マイナスです。

未来に期待をもって成功した話を紹介しましょう。イチロー選手の作文を知っていますか。

ぼくの夢は、一流のプロ野球選手になることです。そのためには、中学、高校で全国大会へ出て、活躍しなければなりません。活躍できるようになるには、練習が必要です。ぼくは、その練習にはじしんがあります。ぼくは3歳の時から練習を始めています。3歳〜7歳までは半年位やっていたんですが、3年生の時から今までは、365日中、360日は、はげしい練習をやっています。だから一週間中、友達と遊べる時間は、5時間〜6時間の間です。そんなに、練習をやっているんだから、必ずプロ野球の選手になれると思います。そして、中学、高校でも活躍して高校を卒業してからプロに入団するつもりです。そしてその球団は中日ドラゴンズか、西武ライオンズが夢です。ドラフト入団でけいやく金は、一億円以上が目標です。ぼくがじしんがあるのは、投手と打撃です。去年の夏ぼくたちは、全国大会へいきました。そしてほとんどの投手を見てきましたが、自分が大会ナンバー1投手とかくしんできるほどです。打撃では、県大会、4試合のうちに、ホームランを3本打ちました。そして、全体を通した打りつは、5割8分3りんでした。このように、自分でまっとうのいくせいせきでした。そして、ぼくたちは、一年間まけ知らずで野球ができました。だからこの、ちょうしで、これからもがんばります。そして、ぼくが一流の選手になって試合にできるようになったら、お世話になった人に、招待券をくばって、おうえんしてもらおうのも夢の1つです。とにかく一番大きな夢はプロ野球選手になることです。

(佐藤健『イチロー物語』毎日新聞社 1995年 57〜58頁)

彼の作文を分析しましょう。人生には、社会的成功と経済的成功と人間的成功があります。イチロー選手の場合、社会的成功とは、プロ野球選手になることです。経済的成功とは、1億円の年収を稼いで、プロが憧れるプロ野球選手になることです。人間的成功とは、自分が野球を続けるうえでお世話になった人の恩を忘れないということです。彼は作文の最後に大切なことを書いています。「とにかく一番大きな夢はプロ野球選手になることです。」彼が日本のプロ野球選手で記録を作って、メジャー・リーグに行って活躍して、何億ものお金を稼げたのも、まずは、プロ野球選手になるという社会的成功があったからできたのです。経済的成功のことをハビング(HAVING)と言います。人間的成功はビーイング(BEING)、社会的な成功(地位、立場、ポジション)をゲッティング(GETTING)と言います。GETとは自分の努力で掴む、手に入れるという意味ですね。社会的成功をするためにどうしたらいいのか。社会的成功の裏側にある自分の個性、強みを活かしたものを活用すると将来大きなレバレッジが働きます。イチロー選手はすごいですね。大きな自分らしい夢をもって、それを完成するために邁進した。でも、今の子どもたちは自分に自信がないから未来に壮大な夢をもてない。その理由はいくつかあります。1、そもそも考える機会がなかった。2、方法論が分からない、ナビゲーターや教えてくれる人がいない。学校で夢の授業なんて受けたことがないでしょう。3、照れくさい、失敗が怖い。人はどうしてもネガティブ思考になりがちです。4、最後は無知です。なにも知らない、初めから情報がなくて存在しない。これが一番怖いのです。知らなかったら、気づきもなければ焦りも改善もできない。

私が皆さんに提案するのは、自分の個性を見つけ認識して、自分の可能性を整理し、自分の最高の未来、3年後を考えてほしいのです。ところが、私たちの思考のパターンは、ほとんどが現在と過去のことしか考えないようにになっています。未来を考えるのが全体の時間のたった12%だそうです。しかも、その12%の中身はいつも4時間から100時間先程のことです。100時間というのは、約4日です。私たちは数時間前から4日先までしか考えない動物ですが、イチロー選手は小学校の時に10年後、20年後を明確に考えていたのです。しかも彼は、それを目標ではなく予定にしていたのです。彼には、アフターゴールがたくさんあります。アフターゴールとは、一つのゴールつまり、目標が達成された次に出てくるだろう目標、もう一つ上のステージのゴールのことを言います。小学校の時に甲子園に出場(ファーストゴール)、プロ野球チームにドラフトでかかる(セカンドゴール)、日本のプロ野球選手が憧れるプロ野球選手になる(サードゴール)、すると、メジャー・リーガーも夢ではないでしょう。いきなりここまでなくても、まずは1年後や3年後を考える時間をぜひ作ってください。

しかし、それには大変な思考のエネルギーがいると思います。過去を思い出すのは、何回も経験しているから誰でもできますが、未来を想像するのはなかなか大変だと思います。慣れていないし、そのときは、一人で行わずに、友人やそういうことが得意な人と一緒に行くことをお勧めします。なぜこれが重要なのでしょうか。初期条件の設定という法則があります。提唱者は、統計学のエドワード・デミング博士、日本に品質管理の考えをもち込んだ先生です。その結果、日本の企業の営業効率がよくなり、増収増益になりました。まずはセグメント(選択)して、ドミナント(徹底的実践)という戦略です。初期条件の設定法則の内容は、「物事にはすべて始まりと終わりがある。その始まりの15%の初期条件の設定を正しく行えたら、得たい結果の85%が得られる」という法則です。これは、脳の思考の仕組みのRAS機能と言います。RAS機能とは街を歩いて、次回車を買おうと思っている人は車に目がいくし、ブランドバッグが好きな人はブランドバッグがよく記憶に残り、車のことは記憶に残っていない現象のことです。お互い本当は見えているはずなのに、人は、結局一度に二つのことを意識することはできないのです。

脳の実験

そのことを証明する実験を一度してみましょう。両手を目の前に出してください。両手で人差し指を伸ばして○を描いてください。次に大きく右手で○、左手は△を描いてみてください。もしあなたが○を意識したら△のほうが○ばかりですし、△を意識したら○が変な形になりませんが、これが、脳は一つのことにはしか焦点をあてられないことの証明です。だから、1日に1回は自分の最高の未来に焦点を合わせる時間を作ってください。あなたが変われるものは「あなたの思考、言葉、行動、未来のビジョン」の4つです。現在のあなたの思考と言葉と行動が未来を変えます。私はよく、「どれを変えたらいいのですか」と質問されますが、思考や言葉、行動は、あなたの過去の長い習慣があるので簡単には変えられません。だから、未来のビジョンを明確にもてばよいのです。私の場合、野球のグラブの本を書くという目標を決めたとき、ノートパソコンを買って持ち歩くようになりました。将来必ずドミニカ共和国に行く、アメリカで出版する、と決めたので英語をもう一度学び始めました。自分のビジョンが明確になればそれを叶えようとするRAS機能が働き、今まで見落としていた有益な情報や素晴らしい機会に気づき始めるのです。

三つの魔法の質問

ブルース・ジェナーは、モントリオールオリンピックの10種目競技という大変な種目の金メダリストで有名なアメリカ人選手です。その彼が祖国アメリカの依頼で、次世代のオリンピックのメダリストを育てるトップアスリートを集めた講演会で講義をしました。彼は選手たちに、1、「君たちは壮大な夢をもっていますか」と聞くとみんながYESと答えました。2、「その方法論や目標をリストにして整理しましたか」。もちろん、それも全員がYES。3、最後に「ではそのリストを今ここで私に見せてください」と言うと、誰も持っていませんでした。そのときに、「私は持っています」と手を挙げたのは、ダン・オブライエンという黒人の選手。ダン選手はその前の大会で失敗をして、記録はよかったけれどメダルはもらえなかったため、今回は必ず金メダルを取ると決意しました。だから、未来の計画書を持ち歩いていました。そして見事アトランタオリンピックで金メダルを獲得したのです。

皆さんが夢を叶えたいと思えば、それをすでに達成した人に会いに行くことをお勧めします。直接成功者に会うことは、その成功者からオーラ(気)をもらえます。あなたの意識が変わります。目標を紙に書くことは思考と言葉と行動が伴います。あなたの変えられるものがすべて反応しています。『思考は現実化する』という本を書いたナポレオン・ヒルという人がいます。その人がモデルにしたのがアンドリュー・カーネギーという人物で、アメリカの歴史的な大富豪で鋼鉄王と言われましたが、最初は移民の貧乏な子どもでした。コネも家柄も学歴もない。小学校も満足に通えていない。彼は聖書を読んで、自分の机の中に将来稼ぐお金の金額と、いつ引退するか年齢を書いた紙を入れ、毎日見ていたそうです。ビル・ゲイツやスティーブ・ジョブスも彼の『富の福音』という本を読んでいます。皆さんも機会があったらぜひ読んでみてください。

最後になりましたが、あなたの幸福度はどこからきますか。ほとんどの人は環境の変化、つまり車を買った、家を買った、欲しかった服やカバンを買ったときだと思っていますが、それは幸福感全体の10%です。時間が経てばすぐに忘れてしまう幸福感です。40%は過去からの遺産と言われています。今健康に生きられていることに対して感謝できることです。そして、残りの50%は他者に対する自分らしい貢献をしたときに味わう感情なんです。

私は野球のグラブを作っていますが、グラブは英語でGLOVEと書きます。私はジーラブと言っています。LOVE(愛)が含まれています。そしてこのGはGIVEだと思えます。GIVE LOVE精神。ドミニカ共和国の子どもたちにグラブを送ることもG-LOVE、東北の被災地に1500個のグラブを届けたのもG-LOVE。多くの企業は自分の会社のスローガンをもっています。私の会社BBAアカデミーは「世界中の子どもたちに彼らしい思い出を作ってもらおう」です。そのドリームキャッチできる道具として、国産にこだわった野球のグラブを製造販売しています。全国の本気のひとと心のキャッチボールをしたいのです。

これからの社会は不透明で、どうなるか誰にも分かりません。だからこそ、あなたが自分自身という軸をしっかりもって未来を創造してほしい、元気な日本を創造する担い手になってほしいと思います。それが新島襄先生の同志社の創立の思いだと、私は信じています。自分らしく社会に貢献する人であってほしい。これが私からのメッセージです。

最後にDVDの映像をお見せします。これは私の未来日記ですが、今の時点で全く何も決まっていません。でも、田舎の小さな会社の社長だっただけのことを数年ですべてできるんだったら、そこを皆さんにお伝えしておきます。そして将来、これができたことをTVや新聞、本屋さんなどで、確認してください。最後までご清聴いただき、本当にありがとうございました。皆さんの大活躍を期待しています。

2013年10月30日 同志社スピリット・ウィーク秋学期
今出川校地「講演」記録